

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 6月22 日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	有限会社 夢家族
事業所名	グループホーム 夢家族・三ツ柳
所在地 (電話番号)	岐阜県羽島市正木町三ツ柳字二丁野184番地 (電 話) 058-393-3796
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年5月13日

【情報提供票より】(19年5月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 3人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/ 改築
建物構造	鉄骨スレート葺き造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	450 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 74 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いわたクリニック タカダ歯科 松波総合病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地ののどかな田園に囲まれた地にあるホームである。これまでの理念を見直し、地域密着型サービスの役割を念頭に生活の継続を支えるための柔軟な支援「安心感」を事業所の理念として掲げた。地域住民の一員として町内会、自治会にも加入し、地域のお祭りや敬老会等にも参加するなど積極的な取り組みをしている。また、運営推進会議のメンバーもホームのクリスマス会や行事、音楽療法などに参加するなど、利用者さんとの交流も始まった。同系列のホームがちょうどいい距離にあり、毎日の散歩には水分補給やおやつを頂き、休憩し、交流も図られている。居室は馴染みの家具やテレビ、冷蔵庫などの持ち込みがあり、各室に空気清浄機の設置がされていて心地良く過ごすための配慮がなされている。また、職員の見守りと地域の協力で日中鍵はかけずその人らしい自由な暮らしを支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実施につなげる努力をしている。実施箇所[意見箱の設置、非常口(裏口)の設置、下駄箱横の手すりとスロープ]
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組んだ一連の過程を職員全員で取り組むことで、職員の意識を合わせ、ケアの振り返りや見直し等が可能になった。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 民生委員の誘いでメンバーが増えたり、運営会議のメンバーが音楽療法に参加され、利用者との交流が深まっている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月1回生活便りで現状を報告、変化がある時はその都度伝えている。面会や行事、推進会議の出席等、個々に話を聞いている。出された意見はミーティング等で話し合い、サービスに反映させている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民の一員として町内会、自治会に加入した。クリスマス会や行事には民生委員はじめ、町内会の人たちが参加してくれる。また、地域のお祭りや敬老会等参加するなど多くの人々との交流に努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、住み慣れた地域で安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるため柔軟な支援「安心感」を事業所の理念とした。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居室や廊下、事務所に墨字で大きく書き、掲示されている。管理者と職員は理念を共有し、ミーティングや申し送りのときにも必ず触れ、確認し合い実践に向けた取り組みがなされている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会、町内会に加入した。クリスマス会やイベントには民生委員や町内会の多くの人に来てくれる。地区のお祭りや敬老会に参加し、なるべく多くの人々との交流がなされるように努めている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価に取り組んだ。また、外部評価の結果をミーティングで報告し、改善計画シートを作成し実施した。(※実施箇所…意見箱や非常口の設置、下駄箱横に手すりスロープを設置)	<input type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月1回運営推進会議を開催し、利用者の状態やグループホームの情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。また、メンバーは音楽療法にも参加され、利用者さんとの交流も深まった。	○	事業所からの報告とともに参加メンバーからの質問、意見、要望を受け、双方向的な会議がなされ、更なるサービスの向上に取り組んでいかれることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	福祉課が定期的に来所している。また、介護相談員の受け入れもあるが交流が少ない。	○	事業所を市職員の研修場所として活用したり、事業所の実情やケアサービスについて市とともに協議しながら解決を図っていくような取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月1回生活便りで、現在の状況を詳しく伝えている。変化ある時はその都度報告する。金銭については本部の方から報告している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会はないが、面会や行事、推進会議の出席時、個々に話を聞いている。出された意見はミーティング等で話し合い、サービスに反映させている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	各ユニットの職員をなるべく固定化し、顔馴染みの職員によるケアに心がけている。新しい職員が入る時は利用者にきちんと紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	地域密着型サービスについて理解と習熟度等に応じて本人の希望を取り入れながら段階的な力をつけていくようにしている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	個人的知り合いや関連事業所などとの交流を図っている。ほかグループホームの見学や相互研修会で事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人、ご家族が来訪し、安心してサービスが受けられるよう事前面談等実施し、本人の希望に沿ったものとなっている。生活保護の方の場合、後見人や市役所等関わりのあった人に相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識は持たず、相互共同しながら和やかな家庭的生活ができるような場面作りや声かけをしている。年長者であるご利用者からの生活の技や生活文化の大切さを教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけ、把握に努め言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。困難な人場合はご家族や関わりのあった人から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員、ご本人をよく知る関係者の気付きや意見、アイデアを出し合い、地域でその人がその人らしく暮らし続けるための利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間が終了する前に変化があった場合には介護計画の見直しを行っている。生活便利および活動ノートにより職員間で連携をとり、ご家族にも連絡を取り、話し合いがなされ、現状に即した計画となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者、ご家族の状況に応じて、通院や買い物支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業者との提携している医療機関の定期的な診療以外にも、以前からの利用者のかかりつけ医での医療を受けられるようにご家族と協力をしながら利用者の状況に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志は、生活便りや、家族にその都度電話で連絡をとるなどして密にしており終末期に向けた話し合いが職員も交えてなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに対し尊敬の念を持って接し、声かけに注意し、プライバシーの保護に留意している。トイレには二重のカーテンを設置し、利用者の誇りとプライドを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な時間割はできているが、一人ひとりのペースや希望に合わせて無理強いしない支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に農園で栽培している野菜や果物などを食することで、作る楽しみとともに楽しい食事となっている。行事のある時は職員もご利用者と一緒に準備や食事、片付けなどをしたが、普段は職員と利用者と一緒に食事する機会は少ない。	○	介助する事だけでなく、一緒に同じ物を食べるのが少しでも多くあるといっそう会話が弾むと思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めているが体調により変更をするなどして対応している。また入浴できないときは足浴や部分浴・清拭などをして気持ちよく過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りで経験を発揮したり、絵を書いて他のグループホームの方と交換をするなど得意な分野を活かして楽しみが広げられるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周りが豊かな田園であることもあり、ゆったりと散歩ができる環境にある。行き先も畑であったり、系列のグループホームであったりと利用者の希望に沿って行き先を決めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員による見守りを徹底し、日中は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対する対策は訓練を受けたり指導された項目を改善するなどして取り組まれている。また災害マニュアルも常に目に見えるところに掲示してあり対応ができるようにしている。地域の方とも顔なじみになることで協力が得られるように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分をバランスよく摂取できるように一人ひとりのご利用者ごとに内容も変えて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく風通しの良い空間でご利用者が個室ばかりでなく、自然とそこにいたくなるような居心地良さがある。ワンルームであるので食事の用意など五感を刺激するのも心地良い。浴室も共用空間に面しているが衝立など工夫されており、プライバシーも確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の家具やテレビ、冷蔵庫なども持ち込まれている。全ての部屋に空気清浄機が設置されており、居心地良く過ごせるように配慮されている。また、本人の症状に応じてポータブルトイレなども設置されており、夜間の安全対策やご本人の症状の安定化などにも配慮されている。		